



議会だより

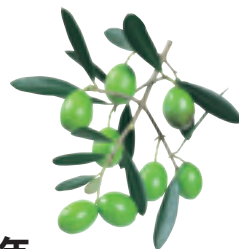
元氣と和気なげ! 土庄町

# とのしよ

No.38

contents

- 町議会の動き……………2P
- 常任委員会の活動……………3～6P
- 特別委員会……………6P
- 一般質問……………7～10P
- 編集後記……………10P



平成21年  
11月5日発行 / 第38号



国指定重要無形民俗文化財

伊勢大神楽



# 9月定例会 一般会計など補正予算可決

## 町議会の動き

9月定例会は、9月17日と18日の2日間の会期で開かれ、平成21年度補正予算4件、条例関係2件、人事案件3件、その他5件、また、議員発議による「決算特別委員会・水道事業調査特別委員会の設置」が提出され、いずれも原案どおり可決、承認しました。なお、平成20年度決算認定については、決算特別委員会に付託し、12月までの継続審査としました。

### 平成21年度補正予算内訳

(単位：千円)

会計名	補正額	補正後	説明
一般会計	166,069	6,956,705	主な事業
			地域公共交通活性化・再生総合事業等 32,203
			子育て応援特別手当事業 12,970
			道路維持・改良費 22,300
			小海浜住宅建替工事 7,498
			豊島小学校屋内運動場耐震補強工事等 33,162
特別会計	国民健康保険事業 6,064	1,914,566	高額療養費負担金 4,763
	老人保健事業 1,613	20,565	支払基金償還金
	介護保険事業 23,342	1,330,840	介護給付費準備基金積立金 6,006 国庫負担金等返還金 15,880

#### 条例改正（一部改正）

平成21年10月1日施行

◆職員の数に関する条例

例 行財政改革の進捗にあわせ、総定数を抑制

#### ◆国民健康保険条例

平成21年10月から平成23年3月までの間の出産に係る出産育児一時金に関する経過措置  
35万円→39万円

#### 人事案件

◆固定資産評価審査委員会委員の選任

土庄町大部  
石井好輝氏

(再任同意)

◆土庄町教育委員会委員の任命

○土庄町馬越

藤本義則氏 同意

(上田行雄氏任期満了)

○土庄町本町

河原陽文氏 同意

(河野宏宣氏の後任)

#### 製造請負契約の締結

◆土庄町戸籍電算化システム構築業務

《契約金額》  
5千9百44万5百円

《契約の相手方》  
富士ゼロックスシステムサービス株式会社

#### ◆その他

◆辺地に係る総合整備計画について

家浦・唐櫃・甲生全域  
スクールバス購入事業

◆新たに生じた土地の確認について

◆字の区域の変更について  
場所：土庄港耐震岸壁横  
面積：54・50㎡  
字吉ヶ浦に編入

◆公有水面埋立について

議会の議決を経て確認し、香川県知事に届出しようとするもの  
(四海漁港区域内)



# 常任委員会の活動

## 総務建設常任委員会

(8月4日閉会中)

### 総務課

#### 2つの交付金事業が創設

1 点目が経済危機対策臨時交付金で、主に単独事業が対象となります。

2 点目が公共投資臨時交付金で、国庫補助事業に交付金を充てる事業です。

次に、過疎債、辺地債について、辺地対策事業債は、山間部や離島などの辺地と他の地域との間における格差の是正を図るため、公共施設の整備事業をするものです。

過疎対策事業債は、時限立法である過疎地域自立促進特別措置法に規定する過疎地域で実施する公共施設を整備する事業などが対象となります。

#### 廃校跡地活用

旧大部小学校は、国の臨時交付金を財源として解体撤去することが6月定例議会で採決され、旧戸形小学校は、NPO法人アート・ビオトープにおいて、複合型施設を予定していたが、中止となりました。

なお、作品の展示など、ソフト面での事業は継続していく予定です。

**委員より、**  
**問** 今後の跡地の有効活用について、町としての考え方は。

**執行部より、**  
**答** 地元の中で再度利用方法がないか検討していただき、併せて町側も企業などへ働きかけをし、何か民間活力で利用できないか。また、プロジェクトチームで跡地利用の案を検討中である。

### 企画課

#### プロジェクトチームの現状

プロジェクトの決定は、2課以上に関係するものについて町長が決定、縦割りを超えて編成する組織だということです。

今後の進め方としては、どのプロジェクトも町の懸案事項となっているものばかりで、具体的な施策を簡単に出せる状況ではないので、結論が急がれるものから順次調査、研究を進めて、概ねの結果が出次第、議会にはかかっていくこととなります。

また、本年度の設置状況は、町長から課題として挙げられたものが11チームあり、それぞれのプロジェクトチームで現在、協議を進めている段階ですとの説明でした。

**委員より、**  
**問** 11項目のビジョンについてどのように考えているのか。

**執行部より、**  
**答** 検討、調査している

### 税務課

#### 町税の徴収状況

常に税の適正な課税と税負担の公平性を基本におき、貴重な自主財源である町税の確保に取り組んでいます。

一般会計の町税全体の収納率は、現年課税分と滞納繰越分を合わせた合計が87・20%で前年度より1・96%減となっています。

未納防止策としては、督促・催促はもとより、納税相談など、年間を通じて訪問徴収を行い滞納の防止に努めています。

次に、小豆地区広域行政事務組合への移管の滞納額は、20年度税額で2,923万6千円を移管し、収納額は430万6千円、徴収率で14・7%となっているとの説明でした。

**委員より、**  
**問** 新たな滞納者が増えているのか。

段階ですので、その時期がきましたら委員会で報告説明します。

### 建設課

#### 土庄港整備事業等について

**執行部より、**  
**答** 滞納者の状況は、以前から滞納している方が多いことや、失業した方などによる滞納も徐々に増えています。

土庄港、群像からフェリー岸壁までの国道延長について、事業名は土庄港整備交付金事業で、香川県が事業主体です。本事業は耐震強化岸壁が整備されたことに伴い、人や車両の流れが変わったため、解決策として臨港道路を整備するものです。整備期間は平成21年度から平成22年度の予定です。

この県事業にあわせて、町としても吉ヶ浦4号線整備事業を予定しています。実施期間は、平成21年度から平成22年度の予定で、駐車場、バス乗場などの整備です。

また、これらの事業にあわせて、土庄港環境整備事業を予定しており、事業内容は、小豆島バス観光センター前の中央橋から町の仮岸壁までの間に緑化整備事業などを予定しています。

次に、東港く西本町バイパスの現状ですが、事業名は県道本町小瀬土庄港線、地域活力基盤創造交付金事業です。事業計画は、全体区間延長が800mで、計画幅員は12mです。昭和59年度に事業を着手、用地もほぼ完了し、工事は順次進めています。事業完了予定は、平成25年度との説明でした。

**委員より、**  
**問** 土庄港周辺道路の整備によって、車両の流れが変わってくるが。

**執行部より、**  
**答** 旧レストラン前付近に緑地帯を作って、この道路の一部を廃止、封鎖して、第1バースの出入りは臨港道路から、第2・第3バースへは、オードホテル側になる計画です。



**農林水産課**

**耕作放棄地対策**

農業従事者の減少・高齢化等により耕作放棄地が増加し、今年4月の国の調査によると、耕作放棄地は、香川県で5,299ha、本町は734haになっています。

解消に向けた対策としては、国・県の補助事業として、耕作放棄地再生利用支援事業があり、大鐸地区生産部会の要望により説明会を実施し、取り組みが検討されています。担い手アクションサポート事業は、農業委員を活用した農地パトロール、地域担い手を対象とした経営改善研修会を実施しています。

次に、農地の権利取得にかかる下限面積の緩和は、従来20aであった下限面積を平成20年12月より10aに引き下げ、これにより農地の流動化促進を図るということです。次に、耕作地の維持については、利用権設定の終

期が近づくと、農業委員が借入者を訪問すること

で、再設定率の向上に努めているとの説明でした。委員より、

**問** 各地区の畑等が荒れてきているが、国の助成金等で整地できないか。執行部より、

**答** 他人の農地を手伝いたいという動きが、大鐸地区では出てきているが、決定はしていない。今後農業委員会等でも検討していきたい。

**水道課**

**貯水状況について**

8月3日現在の貯水状況は、梅雨末期の降雨で貯水量は回復していますが、昨年、一昨年と台風の影響がなく、夏以降の降水量が少ない傾向にあります。

水を多く使用する夏場に入り、農業用水の需要も8月末くらいまでは続くので、安心できる貯水量ではないとの説明でした。

**商工観光課**

**コールセンター誘致の現状**

進出企業は、ウエルコム株式会社で、開設予定は来年1月の予定、施設および雇用人員の規模は、開設当初40席で開始し、来年の末には100席体制にしていくということです。雇用するオペレーターは100名程度、最終的には24時間稼働の3交代で、300名体制にしたとのこと。

業務内容は、当初は各種アンケート調査のデータの入力業務や大手通信販売事業者の電話受注業務等比較的取り組みやすい業務から始めると聞いています。委員より、

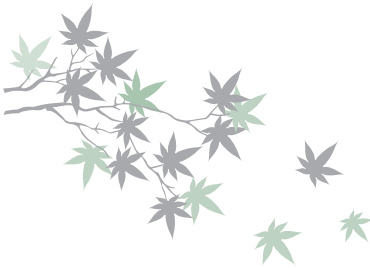
**問** コールセンターの場所はオリブタウン内だが、業務内容等がはっきりしない。1月に間に合うのか。

**答** 執行部より、開設時期は、すれ込

まないようにしたい。業務内容は、地域によってはお店がなくなっているので、お年寄り等の買い物代行サービスなども考えているとの説明でした。

**第16回全国シニアソフトボール古希小豆島大会**

主催は全国シニアソフトボール連盟、主管には小豆島とのしよ観光協会などになります。開催日は、平成22年5月14日から17日までの4日間の予定で、参加者の見込みは約50チームで、1,200人ぐらいを予定しているとの報告でした。



**視察研修**

9月6日から8日にかけ2常任委員会合同で青森県野辺地町へ視察に行きました。



**総務建設常任委員会**

野辺地町立歴史民俗資料館を視察し、町の商工観光対策の取り組みについての説明を受けました。



**教育民生常任委員会**

野辺地町立図書館の運営状況と野辺地病院の現状と医師・看護師の確保などの取り組みについての説明を受けました。



また、約4百年前大坂城再建の際に小海周辺で採石された一部が石畳や階段に使われている野辺地町立愛宕公園も訪問しました。



### 教育民生常任委員会

(8月30日閉会中)

#### 土庄中央病院

#### 近況報告と問題点

病児・病後児保育は、今年の1月から供用を開始し、6か月経過しています。4月からの3か月の実績で86名、1日あたり14名となっています。

常勤医師の状況は、今年4月から内科医が1名増になり、常勤の医師が11名、また、9月からもう1名増えるとのことでした。

委員より、

**問** 医師の確保は進んでいるが、他に問題点はないのか。

執行部より、

**答** 問題は看護師が少ないのが悩みです。原因としては、夜勤等の勤務体制による子育て支援が課題となっています。

結論としては、看護師と特に整形外科の医師不足が問題となっています。

今後は、子育て支援等の課題を、この委員会でも検討していきたいと考えています。

#### 教育総務課

#### 小学校再編計画の経過

教育委員会の基本方針は、土庄町における適正な学校数（豊島小学校を除く）は、最終的に新築1校にすべきであると結論付け、平成26年4月供用開始を目的に、建設目標時期を決定しました。

今後は、町としての方針を決定して、検討委員会等を立ち上げ、また議会にはかりながら再編を進めていきたいとの説明でした。

委員より、

**問** いつ頃、検討委員会等を立ち上げるのか。

執行部より、

**答** 本年度中に検討委員会等を立ち上げ、平成21年度、22年度で協議し、2年間で統廃合計画の地元説明会をし、基本計画を策定したい。平成23年

度は、工事の実施計画、実施設計を作成して、平成24・25年度に校舎の建設工事に入りたいというのが、大まかな考えである。

#### 中学校関係の建設予定

外溝整備工事の駐車場、テニスコート、中庭の整備は8月～10月初旬までに、体育館の補強工事は、12月ぐらいから2月末までの工期で発注する予定との説明でした。

#### 生涯学習課

#### 放課後子ども教室の現状

平成19年度より開始されたこの事業は、現在土庄小学校区1教室・刈崎小学校区2教室で行っており、今年度より四海小学校区で試行しております。

委員より、

**問** 放課後子どもプランについて。

執行部より、

**答** 土庄町は文科省の放

課後子ども教室を主にやってきたが、地域の実情に応じて放課後児童クラブ的な要素も取り入れた方向も考えている。

#### 貸館業務の洗い直し

使用料については過去の先例により、減免件数が多数あり、各団体の実態を精査した上、平等で公平な貸館規定を作成し、できれば来年度より実施したいとの説明でした。

#### 健康増進課

#### 福祉サービス事業の概要

福祉サービス事業は、居宅介護サービス計画事業等6事業から成り立っています。

要支援者と要介護者に対してサービス計画を立てて、食事、排泄、入浴などの身体介護や調理、洗濯、掃除などの生活援助をそれぞれのサービス事業で行っています。

委員より、

**問** 訪問看護事業の休止、ないしは廃止を検討していますとの説明でした。

委員より、

に基づき治療介助を行う業務ですが、医療機関からの指示依頼がないので、訪問看護事業の休止、ないしは廃止を検討していますとの説明でした。

訪問看護事業の休止ないしは廃止については前例により、減免件数が多数あり、各団体の実態を精査した上、平等で公平な貸館規定を作成し、できれば来年度より実施したいとの説明でした。

#### 福祉課

#### 子育て応援特別手当

国の平成20年度補正予算に伴う、子育て応援特別手当は、現在、交付を行っています。今回、国の平成21年度補正予算によって、再度、子育て応援特別手当を交付することになっています。

20年度と21年度の違いは、20年度の対象児童は第2子以降に限られていましたが、21年度では第1子から対象となります。

#### 福祉課

#### 子育て応援特別手当

国の平成20年度補正予算に伴う、子育て応援特別手当は、現在、交付を行っています。今回、国の平成21年度補正予算によって、再度、子育て応援特別手当を交付することになっています。

20年度と21年度の違いは、20年度の対象児童は第2子以降に限られていましたが、21年度では第1子から対象となります。

委員より、

**問** 訪問看護事業の休止、ないしは廃止を検討していますとの説明でした。

委員より、

に基づき治療介助を行う業務ですが、医療機関からの指示依頼がないので、訪問看護事業の休止、ないしは廃止を検討していますとの説明でした。

支給額は、20年度版と同額で子ども一人当たり36,000円の支給です。

#### 住民環境課

#### 戸籍電算化

戸籍電算化は、全国の約80%の自治体がすでに電算化を導入しており、県下では本町と直島町の2町だけが導入していません。そこで、21年度から総事業費約6千万円で、戸籍電算システムを導入する計画を進めています。

#### 住民環境課

#### 戸籍電算化

導入スケジュールは、業者選定を8月初旬から中旬に選定し、9月定例

議会で契約締結の承認をいただく予定です。

委員より、

**問** 維持管理等の経費はどうなるのか。

執行部より、

**答** 維持管理費が必要ですが、それは業者によって違うので、今後、業者選定の中で決定していきたい。

**人権対策課**

**小海浜住宅建替事業**

小海浜住宅建替事業は、住宅の入居者だけでなく、小海地区の自治会役員等も参加した『小海地区人権のまちづくり推進協議会』を設立し、住宅の建替事業だけでなく、小海地区全体の問題点や村おこしを協議してきました。

小海浜住宅の整備は、23年度の完了予定です。

その他、8月に町内在住の人で無作為に抽出した20歳以上の1,200人を対象に「土庄町人権・同和問題に関する意識調査」を実施しました。



第1回 土庄町人権フェスタ2009  
12月5日開催

**特別委員会を設置**

**決算特別委員会**

この委員会で住民の税金等を財源にした予算が、行政・経済・住民福祉の向上にどう反映されたかを調査検討し、次年度の予算編成と財政運営に反映させていきたいと考えています。

- 〈委員長〉 三枝邦彦
- 〈副委員長〉 山本良熙
- 〈委員〉 川本貴也
- 〈委員〉 泊 満夫
- 〈委員〉 上川正衛
- 〈委員〉 井上正清
- 〈委員〉 川口幸路

**水道事業調査特別委員会**

老朽化した肥土山浄水場等の建設・敷設替等を調査、検討し、住民に安全でおいしい水を安定的に供給するため、本委員会を設置するものです。

- 〈委員長〉 山口保範
- 〈副委員長〉 川本貴也
- 〈委員〉 泊 満夫
- 〈委員〉 上川正衛
- 〈委員〉 川口幸路
- 〈委員〉 藤本誠助
- 〈委員〉 三枝邦彦

**交通問題対策特別委員会**

8月6日に本年度初めての交通問題対策特別委員会を開催しました。

まず、今年度に入ってから小豆島バスの動きについて説明がありました。

5月13日に国、県、2町と小豆島バスで路線バス事業継承に係る意見交換会を開催しました。小豆島バスとしては、香川県バス等生活交通確保対策地域協議会を開き、新会社に引き継ぐということでした。

債務は新会社へは持ち込まないこと。非生活路線は存続できないこと。資金繰りの関係で一日も早く新会社へ移譲したいなどの説明がありました。

5月26日と6月12日に、県と2町で協議、7月2日に県と2町に小豆島バスなどを交えて協議をしました。

まず、小豆島バスから新会社についての現状報告がありました。

内容は6月の株主総会で、新会社を分社化して設立していく旨を株主に

説明し、現在出資を募っている状況です。

今後の小豆島バスの課題として、許認可も含め運輸局の課題をクリアすること。新会社の概要、資金面、発起人について等々を具体的に示すようお願いしました。

次に、小豆島地域公共交通協議会の内容について説明があり、事業の内容は、名称「地域公共交通活性化・再生総合事業」で公共交通の総合連携計画を策定する。具体的には、法定協議会を立ち上げ、小豆島のバスや船といった公共交通の総合的な連携計画を作るということで、現況調査等を10月から始める予定との説明でした。

委員より、

**問** 新会社は定期観光バスも路線バスも入っているのか。

執行部より、

**答** 新会社でする場合は、定期観光バスも路線バスもしいけないというの、運輸局の考えです。

委員より、

**問** 小豆島バスの存続があやうくなった時のことを考えてシミュレーションを作っておくことが大事ではないか。

執行部より、

**答** 最悪の場合、2町で走らるか、各町で走らるか。小豆島バスが残れば、スクールバスは可能ですが、明日から無くなる場合、すぐに町が走らすとすると難しい。登録制や認可制等の関連もあるの、調査検討してみたい。

今後、委員会として船とバスとの連動と、海上交通の国道並み扱いなども検討していきたい。また、島民と通勤者のことを考えて進めていきたいと考えています。





# 町政に対する質問

## 9月定例会 一般質問事項

**1期目の実績を総括し  
2期目にどう展開する  
のか**

**Q** 住民・議会に示した町長の公約と「安心安全」「教育」「地域振興」の基本政策について1期目でどこまで実現し、また実現していない点はどこを進めていくのか。

**A** ① 合併協議会の再開

小豆2町の合併は推進すべきと考えるが、しばらくは単独町として生き残りをかけ、合併しなかった利点、効率的な地域経営を目指したい。

② 行財政改革、無駄な手当の精査、少子化対策

一般行政職の削減は3年間の目標は達成しており、22年度中に次期行財政改革大綱を制定します。少子化対策は、引き続き町の重要課題として位置

づけ、子どもの産みややすい環境、育てやすい環境の整備を基本に進めたい。

③ 産婦人科の復活

関連大学等自体に医師確保が厳しい状況下において、小豆医療圏において互いに病院間で補完に努め、診療の確保と継続を図る。

④ 観光振興策

多様化する観光ニーズに応え、観光客が自らの体験を通じ、地域の自然・歴史・文化・伝統産業に触れるなど体験型観光を推進したい。

⑤ 定住自立圏構想の取り組み

12月議会に定住自立圏構想の協定締結の議案を上程する予定。

⑥ 基本政策は、自主防災組織への支援、高潮対策等々継続的に進めており、教育施策は、土庄中学校の校舎改築事業が概

ね完了し、小・中学校の

耐震構造への改築などを進めたい。

**Q** 小学校再編後の跡地の有効活用について

**A** 地域ごとに今後の振興策を模索していますが、地区公民館の移転などについても、財政面等を協議しながら段階的な財政計画の中で進めたい。

**Q** 農業者の実態と今度の農業振興策について

**A** 農業者の高齢化と若い世代への引き継ぎが農業の将来を決める重要な課題であるが、農業の担い手として、意欲ある農業者を支援し、耕作放棄地の再生を目指したい。各地域農業者を支え、各種制度や補助事業に取り組みたい。

猿害・鳥獣害被害対策にも真剣に取り組んでいきたい。

**Q** 瀬戸内国際芸術祭の現在の状況と今後の見通しおよび取り組み

**A** 具休案については、地域の方々と相談し、情報交換を行い、周知に努めたい。

**コールセンター事業進出協定後の進捗状況について**

**Q** 町民にとって大いに注目すべきコールセンター事業の実現に向け、進出調印式以後の進捗状況および人員確保の目途、手応え等を聞かせ願いたい。

**A** ウェルコム株式会社平成22年1月にコールセンターを設置することが決定していますが、現在社員の求人に向けて雇用条件の検討を進めており、10月以降に求人を開始する予定です。業務内容については社内の調整を行っているとのこと。また、コールセンター就職希望者を対象とした研修会を10月から開催します。22年1月

の開設に向けて、一歩一歩固めていきたい。

**Q** 1月までに当初予定の40名の人員確保は厳しいと思うが、また、企業との取り決め・契約はどうなっているのか。

**A** 当然、人材がなければ開設はできない。企業との具体的な取り決めまでは進んでいないが、建物については協議に入っていると聞いています。

人材など、すべてのことに全力で取り組み、開設に向けて努力していきたい。



山口保範 議員



川本貴也 議員



川口幸路 議員

行財政改革実施計画の  
事務事業の改革と見直し

**Q** 行財政改革実施計画の事務事業の改革ですが、工夫をすれば済むという改革です。一例として、主要施策の成果説明書の簡素化等の見直しはできないか。

**A** 厳しい財政状況の中でさらに町民サービスの向上を図るには、これまでの行財政改革の延長では限界がある。今年度、次期行財政計画の調査研究を進めている段階です。  
一例として挙げられた成果説明書については、少し膨大化している点もあろうかと思えますので、簡素化についてさらに検討していきたい。

プロのキャンプ地および  
交通刑務所の誘致について

**Q** 去年12月・今年6月議会で提案したプロスポーツのキャンプ地とか交通刑務所の誘致についての具体的な行動をお聞かせ願いたい。

**A** キャンプ地については現時点では定着していないが、まずスポーツイベントとして拡大していきたい。なお、交通刑務所については、観光地としてイメージが重ならない、また他地域との競争率が高く難しいなど現在では断念しています。皇踏山の開発など提案いただきましたが、『町の活性化は攻めの姿勢で』ということまで心して頑張ります。

12月の町長選について

**Q** 2期目に向かって、町づくりをどのように考えているのか決意を伺いたい。

**A** 今、わが町は新しい観光地が盛り上がっている『天』の時、『地』の利用、港を含めて本土に近い地理的有利さを生かしたい、それから『人』、現在人を大切にという行政を行っています。新しい組織、意欲ある人を育て、人の輪を創っていききたい。『天地人』を一つの核テーマとして2期目に挑戦したい。ただ問題が2点。島の足の確保については、小豆地区路線バス対策会議とタイアップしながら確保していきたい。また、高速道路の無料化など、いかにしてフェリー料金問題を含め活性化していくか、離島にとって大きな課題になってきます。

薬物乱用防止運動について

**Q** 薬物乱用問題は大変身近な社会問題です。年を負うごとに若年層に及んでいる。薬物乱用は、個人・家庭、そして社会を破壊してしま

う。薬物の恐ろしさを教える機会を今以上に増やし、徹底的に啓蒙啓発活動の強化が重要と思うが。

**A** 近年、覚せい剤シンナー等の薬物乱用は、青少年・一般住民にまで浸透して、大きな社会問題になっていいます。小豆地区においても薬物乱用を許さない環境づくり、キャンペーン・パンフレットの配布など啓蒙啓発に努めています。また、小・中学校での取り組みは、保健体育の



上川正衛 議員

保健分野、体育の授業などで学習し、年に1回薬物乱用防止教室なども実施しています。今後とも今以上の薬物乱用防止に取り組んでいきたい。

橋の管理状況について

**Q** 各地で集中豪雨による被害が起きているが、町内の橋の管理状況はどのようになっているのか。

**A** 平成19年11月に町内全橋梁について目視による点検を実施し、その時点では緊急に改良・修繕を実施する箇所はなかったとのことですが、平成22年度に橋梁点検をもう一度実施し、平成23年度に橋梁長寿命化修繕計画を作成する予定です。





**政権交代で土庄町の事業停止の恐れは**

**Q** 麻生内閣が景気対策として実施する事業などを民主党が見直しする方針を示している。補正予算の見直し、また、22年度の概算予算の見直しをする報道がされているが、わが町においても影響が出てくると思われるが、どのように考えるか。

**A** 新聞・報道等で、いろいろな取りざたされているが、現実のところ国・県の状況からして、明確な状況を把握できていないのが現状です。これからの21年度補正予算の凍結等々の新聞報道もあります。そういう中でわが町における将来の負担内容などを



山本良熙 議員

確に捉えながら今後の財政負担を踏まえて、安定的な財政運営を行わなければならぬ。そういう中で、わが町の民意をどういう形で出していくかは、これからの課題と想っています。柔軟な対応等々考え、また県とも密接な関係を取り、将来に向けてわが町の健全な財政運用を行っていきます。主体は町民です。その目線に立って粛々と行政サービスを維持していくということには変わりありません。

**小豊島地区の安全な飲料水の確保を早急に**

**Q** 現在の水源は石積み・打ち抜き井戸を使用しています。水質は生水では飲めないの、各家浄水器を設置し、必ず煮沸が欠かせません。雨が降ればにごりは当たり前で、浄水器のカートリッジ交換は通常より早い。生活に欠かせない貴重な水、本島との格差解消、環境衛生の向上からも住民とのコンセンサスを基本に早急な対応を。

**A** 生活用水の確保は井戸水によってまかなわれています。特に地理的に悪いわが町では、小豊島地区に限らず、すべての家庭の近くまで配管できていないのが現状です。水道事業は公営企業会計で費用対効果を



泊 満夫 議員

考え事業実施しています。今後の設備対応もはつきりこころするといった答えが出せないのが現状です。

**A** 生活格差解消は絶対解消しなければなりません。土庄町民が等しく行政の恩恵を受けられるのは最終目標でもあります。水問題については執行部と協議しています。水をタンクで送るとか、浄化装置に対してどのような考え方ができるか、住民の皆さま方と相談しながら努力していきたい。

**今後の地方政治のあり方について国との関わり方**

**Q** 戦後の日本を支えてきた政・官・業に象徴される自民党政治は終わり、これまでの政

権に不満を抱く有権者が政権を変える結果となりました。成長を政策の中心においた政治は格差を生み、人口減少や少子高齢化が進む中、成長よりも安心できる生活を求めつつ、今後の地方政治の方向について改めて所信を伺いたい。

**A** 民意をどういう形で国政へ反映させていくかという場作りが宿題であり、国会議員も地域の意見を聞き国政へ反映することは政権が変わるうとも手法は変わらないと考えます。地方6団体との合同会議を法制化することは評価したいですが、心配なのは官を離れて、政治決着を行うことに対して、スピード感が鈍るのではないかとこの思いがあります。公共事業を抑制し、ソフト面へ予算配分を変えていく流れと思いますが、島は社会資本整備が遅れています。この窮状は訴えていきたいし、そのため要望行動も行っていくことをご理解をお願いしたい。





丹生則幸 議員

**離島振興地域指定に向けて**

**Q** 小豆島はこれまで島である利便性を生かし、多くの産業が発展してきましたが、瀬戸内の交通の中心部であった有利性はなくなり、物流コストのかかる地域になりました。高速道路の無料化が検討される中で、高速道路に代わるフリーの無料化や地場産業の振興策の一つとして離島振興地域の指定を受けるよう働きかけをしてはいいかがか。

**A** 離島振興対策実施地域の指定には地域要件を大幅に上回っていて、指定される可能性は極めて低いと思われます。小豆島が離島振興地域指定に適用されると、

各種振興策の恩恵を受けることができる可能性があるのも事実です。本町だけでなく、小豆島全体を対象とすべきで、小豆島町とも十分に連携し、前向きな検討をしていきたい。

**Q** 離島振興法の対象地域に指定されないような地区が指定されている例もあるが。

**A** 認定基準が昭和32年にできたので、当時の基準で地域指定を受けていると思われます。しかし、基準に合致していない例も見受けられるので、今後多方面から検討したい。



柳生好彦 議員

**新産業の創出について**

**Q** わが町と小豆島町と香川県と連動して農業・商業・工業の連携をつくり新商品開発として「さめきラー油」なるものを作り、お土産物としてはもちろんのこと、香川県中のうどん屋さんにも置いてもらい需要を上げ、全国に販売する取り組みについて

**A** 新商品開発としての食材を地元調達すべく、小豆島町・県農業改良普及センターや農協とも連携して農作物の栽培の推進を行うことができないか協議を進めたい。農・商・工等の連携に対しては様々な助成制度があるが、主は民間事業者ではないかと考えています。制度を活用す

る際は、町も側面から協力したい。

**Q** 官民の協力体制の中で、チームをつくってともに開発を進めていけないか。

**A** いろんな業界との連携は必要だが、わが町で一番問題なのは、物産協会がないため、どこが販売するのか難しい。そういう意味での物産協会的なものを作らざるを得ない。

農・商・工の連携の中で地域の特産物を作り、各業界を入れた物産協会ができるよう取り組みたい。

**編集後記**

秋祭りも終わり、さわやかな行楽シーズンとなりました。

さて、10月18日、秋の行楽シーズンを前に土庄港周辺・フレトピア公園・エンジェルロードの3か所で「グリーンボランティア作業」を行いました。



この活動には、このしよ観光協会の呼びかけで約120名のボランティアの皆さまが参加して、ゴミ拾いや草抜き、花の植栽などで汗を流し、すがすがしい気持ちで作業を終りました。

いつまでも美しい小豆島で観光客の方々をお迎えし、多くの皆さまに喜んでいただきたいと思います。〈責也 記〉



**町議会を傍聴してみませんか！**

町の本会議は、公開されています。町政がどのように進められているかなど町議会の実際を知りたい方は、いつでも傍聴することができます。詳しくは、議会事務局（TEL6217001）へお問い合わせください。次の町議会は、12月上旬頃から予定しています。